

第9回包装近未来シンポジウム(オンライン配信)

サーキュラーエコノミーにおけるパッケージのあり方

— 紙再利用の方向性・プラスチックリサイクルをどう考えるか —

- 開催日：令和4年3月15日(火)
- 主催：公益社団法人日本包装技術協会

【包装近未来シンポジウムの参加申し込み方法について】

JPIホームページ (URL : <https://www.jpi.or.jp/>) より参加登録をお願いします。

Zoom を利用したオンライン配信となります。

お申込みの方に、事前登録等の手続きをメールでご案内します。

開催要領

- 日時：令和4年3月15日(火) 12:30~16:40

※Zoomを利用したオンラインセミナー形式
申込者に事前登録の手順をメールで連絡します

1名分参加費	参加費		
	会員	会員 (3名同時申込1名あたり)	一般
本体	13,000円	11,000円	20,000円
消費税10%	1,300円	1,100円	2,000円
税込合計	14,300円	12,100円	22,000円

- 定員：100名

お問い合わせ先

公益社団法人日本包装技術協会
包装近未来シンポジウム係 担当：竹内
〒104-0045
東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F
TEL:03(3543)1189/FAX:03(3543)8970
e-mail: takeuchi@jpi.or.jp

【個人情報の取り扱いについて】

1. 個人情報は「包装近未来シンポジウム」の事業実施に関わる資料等の作成、並びに当会が主催・実施する各事業におけるサービスの提供や事業のご案内のために利用させていただきます。なお、作成資料は開催当日、関係者に限り配布する場合があります。
2. 参加申込みによりご提供いただいた個人情報は、法令に基づく場合などを除き、第三者に開示・提供することはありません。

参加申込方法と注意事項

【参加申込方法】

■本催しは「Zoomウェビナー」を利用したオンライン配信となります。

お申し込みは当会ホームページのシンポジウム参加申込ページよりご登録いただくようお願いいたします。

当会ホームページURL : <https://www.jpi.or.jp/>

■参加申込者には**参加用URL、参加方法、参加までの手順、注意事項**をお知らせしますので、確認の上参加の準備を進めて下さい。(登録後、事前の参加手続きが必要ですのでご注意ください。)

■申し込みされた方には後日参加料請求書をお送りします。

■申込者1名のみ本催しに参加できます。1つのメールアドレスで1人しか参加できません。

【注意事項】

- ①「Zoomウェビナー」を利用したオンライン配信となりますのでご利用の端末へのZoomアプリケーションのインストールおよびインターネット接続が必要となります。
- ②接続回線の状況により視聴しにくい場合があります。通信費・接続利用料金等は自己負担となります。
- ③本シンポジウムの内容について、録画・録音・キャプチャー取得によるデータ保存行為を固く禁止します。
- ④申し込みの際**メールアドレスの入力が間違っていると案内メールをお送り出来ません**のでご注意ください。
- ⑤開催3日前からのキャンセルによる参加費のご返金はできませんのでご注意ください。

プログラム

時間	テーマ
12:30—13:10	「水平リサイクル：循環型社会実現のためのドライバー」
	日本は循環基本法以来循環型社会の実現を目指してきたが、2050年にネットゼロを実現するという新たな目標と海洋プラスチックごみ問題への世界的な関心の高まりのもとで、プラスチックの資源循環は新たな段階に進むことが求められている。 本講演では、水平リサイクルがこの困難な目標を達成するための強力なドライバーとなる事を、PETボトルのリサイクル、詰め替えパウチのリサイクル等の事例に基づき解説する。
	講演者 叡啓大学 特任教授 神戸大学 名誉教授 石川 雅紀 氏

時間	テーマ
13:20—14:10	「紙製容器包装のリサイクルへの取り組み」
	持続可能な社会の実現に向けて動き始めた我々にとって、気候変動、資源枯渇、廃棄物問題などは、地球環境における普遍的な課題である。日本製紙グループは、本年5月に発表した「2030ビジョン」の中で、資源循環をベースにしたサステナビリティ経営を推進すると宣言した。これまでも「紙でできることは紙で。」をスローガンに、パッケージ分野における紙の利用拡大に挑戦し、“紙”の視点から上述の課題解決に貢献する技術・製品提供と資源の循環利用を拡大する活動を行ってきた。 本講演では、紙製容器包装のリサイクルについて、日本製紙グループの取り組み及びCLOMAキーアクション実行ワーキンググループ5の取り組みについて紹介する。
	講演者 日本製紙株式会社 技術本部 リサイクル推進室 室長 長谷川 真 氏

企画委員

本シンポジウムは下記企画委員の皆様のご協力により開催しております。

- 後藤 敏彦 氏 特定非営利活動法人 サステナビリティ日本フォーラム 代表理事
- 住本 充弘 氏 住本技術士事務所 所長
- 森 泰正 氏 株式会社 パッケージング・ストラテジー・ジャパン 取締役社長

時 間	テ ー マ
14:20—14:50	「“ごみ”を“エタノール”に変換することで資源循環社会を実現」
	<ul style="list-style-type: none"> ●本技術開発の社会的背景 資源としての“ごみ”の可能性／エタノール生成の意義／本取り組みがもたらす資源循環社会とは ●本技術の概要 エタノール製造プロセスの概要／開発の工夫ポイント（微生物触媒について・ガス精製技術） ●本技術が実現する将来の姿 本取り組みが目指す将来の姿／本取り組みがもたらす産業連携／事業化に向けた現在の位置づけと今後／スケジュール
	講 演 者
	積水化学工業株式会社 新事業開発部 BRグループ 参事 豊川 卓也 氏

時 間	パネルディスカッション
15:00—16:40	【事前発表】(各20分、15:00～15:40)
	(15:00～15:20) 「サーキュラーエコノミーの実現に向けて DNP環境配慮パッケージングGREEN PACKAGING」 大日本印刷株式会社 包装事業部 イノベティブ・パッケージングセンター マーケティング戦略本部 事業開発部 部長 加戸 卓 氏 DNP環境配慮パッケージングGREEN PACKAGINGでは、地球温暖化やプラスチック資源循環の社会課題解決に向け、3つの提供価値「CO2の削減」「資源の循環」「自然環境の保全」を展開している。本年4月より「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」にてプラスチック使用製品の設計指針や再資源化などについて、法律が施行される。パッケージのリサイクルしやすい製品設計や再生材の活用、水平リサイクルの実現に向けた課題など、サーキュラーエコノミーの実現に向け取り組むべきことについて、事例を交えて紹介する。
	(15:20～15:40) 「循環型社会の実現に向けてパッケージにできること」 凸版印刷株式会社 パッケージソリューション事業部 サステナブルパッケージングセンター 高澤 宇史 氏 近年ますます深刻化する地球温暖化による気候変動などの環境問題をきっかけに、持続可能な社会に向けた機運は国内外で高まっている。トッパンは、「価値あるパッケージ」で、よりよい社会と心豊かで快適な生活に貢献するTOPPAN S VALUE® Packaging」を掲げ、「ちきゅう」に価値ある「サステナブル バリュエパッケージ®」を提供している。本講演では、世界No.1の透明バリアフィルムブランド「GL BARRER」の活用によりCO2排出量削減を実現する各種バリア包材、単一素材を用いてリサイクル適性を向上させるモノマテリアル包材など、循環型社会の実現に向けたトッパンの取り組みを、最新の開発事例とともにご紹介する。 ※透明蒸着バリアフィルムの世界シェア第1位
	【ディスカッション】(15:40～16:40)
	— サークュラーエコノミーの中におけるパッケージのあり方 —
石川先生・日本製紙(株) 長谷川 真氏・大日本印刷(株) 加戸 卓氏・凸版印刷(株) 高澤 宇史氏・シンポジウム企画委員(後藤 俊彦氏・住本 充弘氏・森 泰正氏)	

講師・パネリストの紹介

■石川 雅紀(イシカワ マサノブ)氏

叡啓大学 特任教授／神戸大学 名誉教授
2003年 神戸大学大学院経済学研究科 教授
2019年 神戸大学大学院経済学研究科 定年退職
2020年 叡啓大学 特任教授

■長谷川 真(ハセガワ マコト)氏

日本製紙株式会社 技術本部 リサイクル推進室 室長
1993年4月 日本製紙株式会社入社
商品開発研究所、勿来工場、技術本部、グループ販売戦略本部等にて勤務
2021年6月 技術本部 リサイクル推進室長

■豊川 卓也(トヨカワ タクヤ)氏

積水化学工業株式会社 新事業開発部 BRグループ 参事
2019年4月より、BR事業のエタノールバリューチェーンの開拓に従事。
現在に至る。

■加戸 卓(カド タカシ)氏

大日本印刷株式会社 包装事業部 イノベティブ・パッケージングセンター マーケティング戦略本部 事業開発部 部長
2001年入社。パッケージ開発部門にて、機能性パッケージなどプラスチック容器の開発に従事。
2018年より事業企画部門にて、環境関連テーマに注力。2019年より環境ビジネス推進グループ発足にて、環境配慮パッケージングGREEN PACKAGINGの拡大をはじめ、環境問題解決に貢献する事業開発テーマに着手、現在に至る。
包装専士、環境社会検定 (eco検定)

■高澤 宇史(タカザワ ヒロシ)氏

凸版印刷株式会社 パッケージソリューション事業部 サステナブルパッケージングセンター
2009年凸版印刷入社。研究・開発や事業戦略業務を経て、2020年より現職で環境配慮型パッケージに関するマーケティング・戦略立案業務を担当。

■後藤 敏彦(ゴトウ トシヒコ)氏 (企画委員)

特定非営利活動法人 サステナビリティ日本フォーラム 代表理事
サステナビリティ日本フォーラム代表理事、(一社)グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン理事、環境経

営学会会長、日本サステナブル投資フォーラム理事・最高顧問、グリーンファイナンス推進機構理事、レジリエンスジャパン推進協議会理事、環境パートナーシップ会議理事、法人アースウォッチジャパン理事等
環境省事業//環境情報開示基盤整備事業WG座長/環境コミュニケーション大賞審査委員複数委員会の座長・委員など。
東京大学法学部卒
著書多数

■住本 充弘(スミモト ミツヒロ)氏 (企画委員)

住本技術士事務所 所長
2004年1月 大日本印刷(株)を定年退職し、以後コンサルタント活動に入る。
世界の包装展視察や世界の企業の包装コンサルタント活動や国内企業のコンサルタント活動を続けている。
日本技術士会会員、技術士包装物流会会員、日本包装学会会員、日本包装コンサルタント協会会員、日本包装管理士会会員
技術士(経営工学)、包装管理士、業界誌に執筆多数

■森 泰正(モリ ヤスマサ)氏 (企画委員)

株式会社 パッケージング・ストラテジー・ジャパン 取締役社長
1972年～2009年 三井・デュポン ポリケミカル(株)勤務
1988年～1990年 米国デュポン社 パッケージ事業部門に
出向
2009年～2017年 三井物産(株) パッケージング・シニアアドバイザー
2015年1月 (株)パッケージング・ストラテジー・ジャパンを有田氏(現有田技術士事務所 所長)より承継
現在に至る
海外と日本の最新パッケージング技術の融合を目指す活動を行っている